



地球温暖化対策の新たな国際的枠組み「パリ協定」の発効、IMO（国際海事機関）による排出ガス規制の強化など、地球という有限な器の中で「持続可能な社会」を実現するために、環境規制の高まりは世界的な潮流となっています。

パリ協定では、世界全体で低炭素社会、さらには脱炭素社会を目指していくことが決まりました。2020年以降、全ての国は5年毎に温室効果ガス排出量削減目標を作り、国内対策を進めることが義務付けられます。

また、IMOの排出ガス規制は、船舶の排気ガスに含まれるSO_x（硫黄酸化物）、NO_x（窒素酸化物）の排出規制を大幅に強化するものであり、現存船、新造船を問わず、2020年から全ての船舶に適用されます。

新潟原動機は海に陸に、ディーゼルエンジンなどをキーハードとしたパワーシステムを提供しており、環境規制の高まりを好機と捉え、これまで様々な環境技術の研究開発と実用化に取り組んできました。

環境性能を高めた新商品「高効率ディーゼルエンジン V28AHX」。重油とLNG（液化天然ガス）、二元燃料焚きのできる「船舶用デュアルフューエルエンジン 28AHX-DF」。「発電用高効率ガスエンジン 28AGS」。これらの商品は多くのお客様からご支持をいただき、社会に貢献し始めています。特にLNG燃料は、SO_xだけでなくNO_xの除去やCO₂対策にもなることから世界中が

注目しており、新潟原動機の28AHX-DFエンジンは、日本国内初のLNG燃料タグボートの主機として稼働しています。

また、燃焼効率の高い船舶用ディーゼル機関の特性を損なわずにNO_x排出量をIMOの3次規制レベルにまで削減する排ガス後処理装置であるSCR（選択式還元触媒）搭載機関も販売を開始しました。

新潟原動機は、中期経営計画『ジャンプNIIGATA2016』の骨子である、商品の更なる環境性能向上の追及、環境への負荷低減を意識したモノづくり、ライフサイクルを通じた環境負荷の低減、いきいきとした職場づくり・人づくりに取り組み、これからも多様化する社会のニーズに応え、さらにそのニーズを先取りして、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

事業活動の全てにおいて「全員参加」「社員一人ひとりが主役」「経営資源の投入」を通じて継続的に事業パフォーマンスの向上を図るとともに、法令を順守し、お客様、取引先、地域社会などからの要請に応えて信頼される会社を目指します。

2018年も継続して環境報告書を発刊し、新潟原動機の社会・環境に対する活動を報告します。今後とも弊社の活動に対しまして、ご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

新潟原動機株式会社
代表取締役社長 矢矧 浩二